

# フロンティア

あべ晋三後援会会報誌

FRONTIER



創刊号





# 「政治に新しい 光芒を——」



ソニー株式会社 社長  
盛田 昭夫

安倍晋三君、あなたは父上の志を継いで衆議院選挙に立つ決意をされました。わたしは双手をあげて初陣をお祝いし、ご成功を祈ります。

頑張りぬいて当選を果たし、これからのあなたの人生を郷土と国家の為に捧げて下さい。

晋三君、あなたは会社勤めも体験され、父上の許では十年つぶさに政治の実務に打ち込まれ、そして何よりも大きな教訓を父上から学ばれました。おそらく晋三君は、これからの政治家はどうあるべきかを翻然会得し、心中深く期するものあつての出馬の決意だと信じています。

わたしは安倍晋太郎先生とは二十年来ご昵懇の間柄であり、寛信さんの仲人もさせて頂き、安倍家とは身内同然のおつきあいをさせて頂いている深いご縁がございます。晋三君の魅力は、何よりもその明るさ、ほのぼのとした温かさを人に与える天性の人柄です。

新しい時代に責任をもつ政治家としての素質と風格がすでに備わっていて、わたしは晋三君と会うたびに、亡き晋太郎先生の面影が彷彿とするようで感無量なのです。

晋三君、あなたの父上はその生涯を文字通り郷

土と国家に捧げられた方でした。常に政府・党の中樞にあつて休む暇もなく、いのちの灯火が消える寸前まで国事に心血をそそぎ、「宰相」へのゴール寸前ついに力盡きて旅立たれました。わたしは明治維新の原動力、吉田松蔭・高杉晋作の「長州魂」の凄さをあなたの父上からみせつけられた思いがしています。

晋三君、あなたの体にはこの父上の血が流れ、最後の総仕上げを果たし得なかった父上の無念さもしみ込んでいる筈です。さらに祖父寛先生から、日本の今日をつくり上げた名宰相岸信介、佐藤栄作先生の血も継いでいます。その志を継ぐのは当然あなたの宿命であり、責任でもあるでしょう……。

二十一世紀を目前に世界はいま変革の波に襲われ、日本の政治も大きな転換期に立っております。作家の司馬遼太郎さんは、この大事なおりに光度が消え入るように弱々しい「古い電池」では政治にならない——と書いています。まさに至言です。晋三君、あなたは間違いなく「新品の電池」で、これからの政治に明るく強い光芒を放ってくれるものと、わたしは大いに期待しています。





(株)第一勧業銀行会長  
宮崎 邦次

安倍晋太郎先生は、日本を始め世界各国からしみじみとその長逝を惜しまれたほんとうに偉大な政治家でありました。その安倍先生の後継者として、晋三さんが次の総選挙に山口一区から出馬することになりましたが、まことに喜ばしいことです。私はお父さんの安倍先生だけでなく晋三さんとも昵懇の間柄であり、その人となりにつねづね尊敬しております。晋三さんは学校を卒業後、米国へ留学されました。社会人として神戸製鋼所に勤務され、英語も堪能ということでニューヨーク事務所に配属され、企業の実務に携わりました。その後、神戸製鋼所の加古川製鉄所では現場の人と汗を流し、多くの体験を重ねられ「人の情」を学ばれたと思います。このサラリーマン時代の貴重な経験が、人間をひと回りもふた回りも大きくしたのではないかと思います。晋三さんは責任感が強いだけでなく、考え方の幅も非常に広く、柔軟性溢れる好人物であります。そして、外務大臣秘書官・幹事長秘書となつて約十年にわたり安倍先生を助け、世界の状況・日本の政治・経済・外交に対する認識を深めてくれました。

今、日本の政界も財界も大きな転換期を迎え、二十一世紀に向かって、新しい秩序が求められています。この激動の世界を乗り切るためには、若い人のエネルギーが必要です。晋三さんはいま三十七才の若さであり、気骨ある、そして信頼のおける青年であります。一層の飛躍を確信し、私は応援します。



東京大学教授  
佐藤 誠三郎

「梅檀は双葉より芳し」——これが晋三さんに初めてお会いした時の第一印象であり、その印象は今も変わらない。政府と党の要職を歴任された父君の秘書として研鑽を積まれていた晋三さんは、内政と外交の広い分野にわたる経験と見識を若くしてすでに持ち、しかも名門出の若者にありがちな高慢さを少しも感じさせなかった。父君を敬愛されながらも「父はこういう所が弱いですから、よろしく御助言下さい」などと私に語るような冷静で周到な眼の持ち主でもあった。総理・総裁を目前にして惜しくも逝かれた父君の遺志を継ぎ、日本のため、そして故郷山口県のため、立派な政治家・指導者として、安倍晋三さんが大成されることを、確信し念願している。



日本看護連盟山口県支部  
支部長 立野 スエ子

若き政治家を目ざして登場する  
安倍晋三氏を推薦します。

私の政治感覚の中では永久に生き続けるであろう、安倍晋太郎先生。先生の好きな言葉は「初心忘るべからず」ひたすら国のため、ふるさとのため、やさしいまなこで世界を見つめて居られた事でしよう。時代は移り、世代交代は現代社会の常。次期衆議院選に出馬表明をされた安倍晋三氏。偉大な政治家の家系に生を受け、父なる外務大臣の秘書官としての実績を持ち、将来が期待されて居ることは他の追隨を許さない。

ここに二十一世紀に夢と志を継ぎ、若さと情熱をかけた平成の政治家の誕生を期待しています。







# 未来は開かれている。 夢を継ぐ。志を継ぐ。21世紀へ全力。

いづれ

## あべ晋三

虫の音も澄みわたり、天高く馬肥ゆる秋となり過ぎやすい季節となっていました。  
父、安倍晋太郎亡きあとも、変わらぬご厚情をお寄せ下さいまして、厚く御礼申し上げます。  
このたび、後援会の皆様とのコミュニケーションをより深めるために、会報誌「フロンティア」を創刊する事になりました。

思えば、父が志なかばにして倒れました昨年は、湾岸戦争に始まり、ソ連の崩壊によって終わるという激動の年でありましたが、これは世紀末を象徴するものでなく、明かに「新しい時代」への幕開けの示唆であろうと存じます。

私は常日頃から「未来は不変のものではなく、我々の努力によって創りだされていく」と考えておりますが、今はまさに新しい時代を創出すべき時です。未来を開くに最も大切な今、外務大臣秘書官、幹事長秘書として父の下で学んだ事を活かして、より良き未来作りに貢献したいとの思いで、次期総選挙に立候補する事を決意いたしました。

現在、日本は長い歴史の中で画期的な豊かさの中にあります。それと同時に豊かな国としての義務を果す事を世界から期待されています。

日本が今後世界の中で、豊かな国として生き残ってゆく為にも、出来る限りの分野で自ら額に汗する覚悟で貢献してゆかなければなりません。米ソ冷戦終了後の世界平和の為の新しい秩序作りに、日本は重要な役割を果たしてゆく事が求められています。

国内に於いては、近い将来高齢化社会が到来します。私達はそれに備えて福祉の充実、年金体制の強化はもちろんの事、お年寄が生きがいを持って仕事を続けてゆく事の出来る環境を作らなければなりません。

又、福祉分野でのボランティアによる貢献も必要になってきます。その為に他人を思いやる心、国を愛する心を教育の場で育ててゆかなければならない、と考えます。

ふるさと山口県に目を移しますと、人口の減少に伴う農漁村の過疎化や人手不足など難問が山積しております。各地域の特徴を活かした活性化を計り、美しい環境を守りながら、元気な山口県作りを目指してゆきたいと思っております。

今後とも皆様の御意見を賜わりながら、こうした課題に挑戦してまいりますので、ご支援戴きますようお願い申し上げます。

## あべ晋三 プロフィール

1954年(昭29)9月21日 安倍晋太郎・洋子夫妻の二男として生まれる。  
1977年(昭52)3月 成蹊大学法学部政治学科卒業、引き続き南カリフォルニア大学政治学科に2年間留学。  
1979年(昭54)4月 株式会社神戸製鋼所入社。ニューヨーク支社・加古川製鉄所・東京本社に勤務ののち1982年11月退社。

1982年(昭57)11月 外務大臣秘書官。  
1986年(昭61) 7月 自由民主党総務会長秘書。  
1987年(昭62)10月 自由民主党幹事長秘書。  
1991年(平 3) 7月 故安倍晋太郎後継者として安倍晋三後援会事務所を各地に発足。

スポーツは、剣道、スキー、水泳、アーチェリー、テニス、ゴルフ、など万能。



他人を思いやる心。  
郷土と国を愛する心。  
個性に富んだ健やかな社会に向けて今――。



奥さんと共に後援会の皆さんとぶどう狩りへ行く。



工場にて熱心に説明を聞く晋三さん。



新製品の説明に耳を傾ける。



コンバインに乗って一緒に稲刈りをする。



将来の農園の姿について語り合う。



施設慰問にて手を取って励ます。



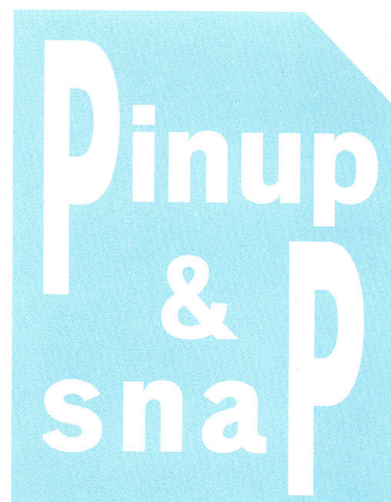
老人クラブにて談笑のひとつとき。



六連島訪問にて子供達と一緒に。



# あべ 晋三さんはこんな人 知って欲しい あべ 晋三さんの素顔



神戸製鋼テニスクラブに所属。  
(前列左から2番目)



小学校五年生の時の剣道大会にて  
(前列左から六番目)



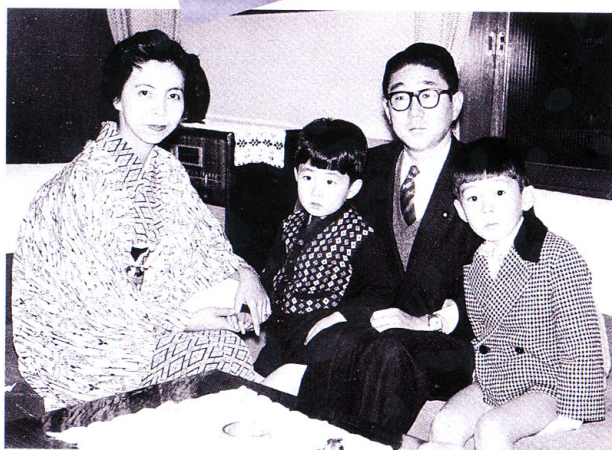
神戸製鋼加古川製鉄所時代、同僚と  
ともに。(向かって右)



外務大臣秘書官時代、  
外交団をお迎えして。

## 秘書10年の実績

アメリカ、欧州、東南アジア、  
アフリカ等外務大臣秘書官と  
して25回海外出張。安倍晋太  
郎の代理として中央官庁と交  
渉し、第二関門橋、テクノポ  
リス計画、角島大橋、農村漁  
村基盤整備等の予算獲得。



父安倍晋太郎氏初当選後、家族での写真。



父の親書を手にブッシュ米大統領を表敬訪問する。



東京・宇部・長門・下関でしめやかに

# 安倍晋太郎氏を偲ぶ会

安倍先生の日米関係、国際社会への貢献は高く評価され、その功績は日本だけでなく全世界に及んでいる（クエール米副大統領）

まさに将たる人柄で、絶対に他人を裏切らない人だった。首相になるんだ、との国民的な要望があったが、その夢がかなえられなくて残念（宮沢喜一首相）

いち早く東西融和の世界観を持ち、旧ソ連との国交回復に貢献した政治家としての先見性は高く評価されている（福田赳夫元首相）

安倍ちゃんの命日は永久に忘れることはない（竹下登元首相）

晋三さんのご尊父の一周忌にあたる五月十五日夕、東京プリンスホテルで「偲ぶ会」が開かれ、鈴木、中曽根、宇野、海部歴代首相、

自民党四役、閣僚、野党党首クラ

ス、財界首脳の皆様をはじめ多くの方々のご列席を頂きました。前掲のご挨拶はその一部ですが、地元でも二十二日に宇部市と長門市、二十三日には下関市でそれぞれ開催され、四会場あわせて約七千五百人もの方々がご参列、故人の遺徳を偲ばれました。



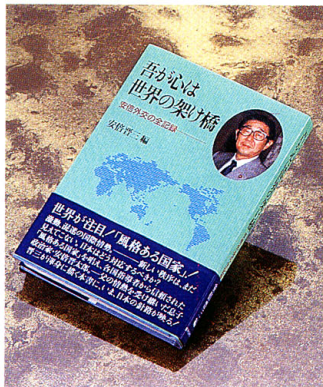


# 新刊紹介

あべ晋三・編

## 『吾が心は 世界の架け橋』

副題に『安倍外交の全記録』とあって、表紙に「宰相夢半ば」にして倒れた安倍晋三氏の穏やかな顔が写し出されている。てっきり「遺稿」だと思って手にとりべらべらとページを追いつつ、つい惹き込まれて読み次いだ。ところが途中で再び表紙を見ると「安倍晋三・編」となっている。全く迂闊であった。因みに、編者は晋三氏の二男で、約十年間、父の秘書をつとめ、しっかりとその政



治感覚をとらえて来た人。

この書には、己を口にすること  
を好まず、ひたすら国を思い、世  
界の平和を願って全力をつくした  
偉大な政治家の生き方、考え方、  
歩みぶりなどを、正確に語り継ご  
うとする肉親の温かきがある。自  
分の功績について多くを語ろうと  
しなかった晋三氏は、「折々の  
感想や抱負、見通し」をメモする  
習慣があったそうで、編者はそれ  
らの「遺文」を一つ一つひもとき  
ながら厳父の本当の姿を描き出し  
ている。

本書は晋三氏のすべてではな  
く、昭和五十七年十一月の外務大  
臣任命から自民党総務会長就任に  
至る僅か三年八か月の外交記録に  
すぎない。しかし、その間に安倍  
外相は海外出張三十九回、出張日  
数二百六十六日、訪問国四十六カ  
国は延べ八十一カ国に及び、要し  
た移動距離は七十六万三千六百キ  
ロ、実に地球を十九周したことにな  
る、という。

かつて、これほど地球の隅々ま  
で駆け巡った外相が居たであらう  
か。かつて、これほど世界の要人  
と心を開いて話し合った日本人が  
居たであらうか。人々の幸せを願  
って「安倍ちゃん」は、こんなにも  
体をすり減らしたのか、と今更  
ながら胸が熱くなってくる。

「スポーツ選手が成長するため  
には一流の相手にもまれなければ

ならないが、外交についても同じ  
ことが言える」とは本書の一節。  
外相から自民党幹事長に至る厳父  
の十年間を秘書として、国際社会  
一流の人々に接し、多くの政治哲  
学を体得した編者・安倍晋三氏の  
筆は、創造外交を舞台とする臨場  
感に溢れていて迫力がある。世界  
平和希求へのバイブルとして、こ  
の書を広くお薦めしたい。(都美)

## 誌名「フロンティア」について

「Frontier」——すっかり日  
本語化された言葉ですが、本当  
の意味は案外知らないもので  
す。

「アメリカ開拓期における開  
拓地の最前線」と『新世紀大辞  
典』にあり、『広辞苑』には  
「(科学などの)最前線。未開  
拓の分野」の意もあると書かれ  
ています。

21世紀も、もうすぐそこ。待  
望の近未来へいよいよ突入で  
す。幸せと平和を願う新たな  
時代は新しい世代が丸となつ  
て切り開いていかねばなりませ  
ん。いわゆるフロンティア・ス  
ピリット……。

あべ晋三さんは、常に「未来  
は不変のものでなく我々の努力  
によって創り出されていくもの  
と考える」と言っています。私  
たちがこの会報誌名を「フロン  
ティア」としましたのは、晋三  
さんの心意気にぴったり合う言  
葉はこれ以外にないと思つたか  
らです。

「フロンティア」は随時発行  
しますので未永いご愛読と益々  
のご支援をお願い致します。

## Next News

- マンガでわかる政治シリーズ  
第一回 PKO法案って何?
- 私の自慢料理  
第一回 昭恵さんが語る主人の大好物。

その他様々な企画を立案中です。知りたい情  
報、ためになるお話、何かございましたらあ  
べ晋三後援会事務所までお知らせ下さい。読  
者の皆様とコミュニケーションを図る会報誌  
です。

フロンティア 創刊号 1992年(平成4)

発行所／あべ晋三後援会